

50 画家・大石良太（2021年4月22日）

画家の大石良太さんは、1984年に大阪からベルサイユに移住され、風景画を描かれています。ベルサイユ市内の戸外で制作を続けていた姿が当時のベルサイユ市長の目に留まり、市内で展覧会を開催するようになりました。大石さんは、目に見えるベルサイユの景観だけではなく、ベルサイユ市からの依頼で、ベルサイユの過去の風景も描きました。わずかに残された写真や資料を手がかりに、失われた風景をキャンバスの中で復元するという困難な作業は、ベルサイユを知り尽くした大石さんにしかできなかったことでしょう。大石さんが描いたデッサンは、これまでに何度かベルサイユ市内で展示され、ベルサイユ市古文書館に収蔵されました。



大石さんは、ベルサイユ市と奈良市の姉妹都市交流にも貢献されました。フランスと日本の二つの古都の関係者がお互いの町を訪問する際に、大石さんが仲介したことで、二つの市の交流が深まりました。2016年には、ベルサイユで「ベルサイユ百景」展を開催し、2017年にはフランス政府から文化芸術勲章シュバリエを受章されました。2018年には、奈良でも「ベルサイユ百景」展を開催して、日本の人々にベルサイユの魅力を伝えました。



## パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

現在の大石さんは、モン・サン・ミッシェルの対岸にあるポントルソンに拠点を移して、モン・サン・ミッシェルをテーマに制作をされています。ユネスコの世界遺産に登録されているこの小さな島には、世界中から多くの観光客が訪れます。しかし、滞在時間がわずかな観光客は、季節によって姿を変え、一日の時間帯によっても色合いが異なるモン・サン・ミッシェルの魅力を知り尽くすことはできません。キャンバスに写したい島の姿がたくさんあると話される大石さんは、「モン・サン・ミッシェル百景」を目指して、毎日絵筆をとられています。大石さんは、キャンバスを通して、世界中の人を魅了する歴史遺産の数多くの表情を私たちに見せてくださることでしょう。「モン・サン・ミッシェル百景」の完成を楽しみにしています！

